

知って 備えて 行動する 防災ワークブック(幼児向け) 構成とねらい

本教材は、先生や保護者の読み聞かせを通じて、災害時の危険に気づき、大人と一緒に命を守る行動を身につけることを目的としています。
そのため、読み手は単に本文を読むだけでなく、各場面で絵を指差しながら短い問いかけを行い、幼児の発言や不安に寄り添いながら、「頭を守る」「大人の話聞く」「危ない場所に近づかない」といった行動を短い合言葉で確認して読み進めてください。

ステップ①災害を知る読み聞かせ

【タイトル】じしん・つなみ・たいふう・おおあめ ってなに？

【該当ページ】P4～5

【ねらい】地震・津波・台風・大雨について知る



ステップ②危険を見つけるワーク

【タイトル】きけんはどこかな？

【該当ページ】P6～9

【ねらい】部屋の中の危険に気づき、命を守る行動を知る



ステップ③大人との約束づくり

【タイトル】せんせいやおうちのひとのおやくそく

【該当ページ】P10～11

【学習目標】園・家庭・散歩中の約束を、短い言葉で覚えて伝える

指導のポイント

頁	構成・内容	指導上の留意点、主な問いかけ
4-5	じしん・つなみ・たいふう・おおあめ ってなに？ ➤ 災害を知る読み聞かせ。地震・津波・台風・大雨のときに起こることと、基本行動を知る。	- 読み聞かせの途中で、「ぐらぐらしたら、まずどこを守るかな」「海や川の様子を見に行っていかな」「強い雨や風の時、お外を見に行っていかな」と短く問いかける。 - こどもからは「頭」「机の下」「だめ」「逃げる」などの反応が想定される。答えが出ない場合は、絵を指差しながら「この子みたいに頭を守るよ」と示す。 - 怖がる子には「こわいね。でも、どうすれば安全かを一緒に練習しておこうね」と受け止め、適切な行動をすることで怖いものではないことを意識づける。
6-9	きけんはどこかな？ ➤ 危険を見つける絵探し。保育室の絵を見ながら、地震時に落ちる・倒れる・割れるものに気づき、頭を守る動きを確認する。	「みんなのお部屋にもあるものはどれかな」「ぐらぐらしたら、これはどうなるかな」「頭を守るにはどうしたらいいかな」と問いかける。 - 危険の指摘で終わらせず、「机があるときは下に入る」「机がないときはだんごむしのポーズ」と行動に結びつける。 - 最後に実際にまねをさせ、頭を守る姿勢を確認するとよい。
10-11	せんせいやおうちのひとのおやくそく ➤ 先生やおうちの人との約束。園・家庭・散歩中の地震時の行動を、短い言葉で確認する。	「園でぐらぐらしたら、誰のお話を聞くかな」「お外にいる時は、先生から離れていいかな」「お迎えが来るまではどうするかな」と問いかける。 - 約束は多くしすぎず、「あたまをまもる」「せんせいをみる」「はなれない」「おむかえまでまつ」など、こどもが復唱できる言葉に絞る。 - 家庭で使う場合は、園や家庭の実情に合わせて大人が書き込み、こどもと一緒に読み返す。